

がん哲学外来

メディカル・カフェ

In 帝塚山

日時：2017年6月17日（土）午後2時～3時半
場所：日本長老教会 大阪キリスト教会
後援：一般社団法人 がん哲学外来



メディカル・カフェとは？

がん哲学外来の樋野先生の理念に賛同する医師、患者さん、市民などが運営するもので、今は全国120ヶ所の教会、病院、公共施設などで開催されています。

「哲学外来」は、医師と患者さんの個人面談がメインですが、「カフェ」は、少人数のグループが、コーヒーなどを飲みながら、忌憚なく自由に対話するという構成になっています。

樋野先生の多数の著書の中から、一節読んだ後、フリートークタイムを過ごします。

是非お気軽にご参加ください。お待ちしております。

テキストは、『いい人生は、最期の5年で決まる』から、第1章「心配するのは、1日1時間でよいのです」で、今月は、「2. ハッピーを期待しない、ジョイフルに目を向ける」から学びます。

樋野 興夫先生とは？

1954年、島根県生まれ。順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授。医学博士。一般社団法人「がん哲学外来」理事長。米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センター、米国フォックスがんセンター、癌研実験病理部長を経て現職。日本癌学会理事、日本家族性腫瘍学会名誉理事長、がん哲学外来市民学会代表。

2008年、「がん哲学外来」を順天堂大学病院で開設し、現在は「がん哲学外来&カフェ」を全国で展開中。

主な著書に、『使命を生きるということー真のホスピス緩和とがん哲学外来からのメッセージ』（柏木哲夫共著・青海社）『がん哲学外来の話 殺到した患者と家族が笑顔を取り戻す』『いい覚悟で生きる』（ともに小学館）『明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい』（幻冬舎）『見上げれば、必ずどこかに青空が』（ビジネス社）『がん哲学外来へようこそ』（新潮社）『あなたはそこにいるだけで価値ある存在』（KADOKAWA）『「今日」という日の花を摘む』（実業之日本社）『病気は人生の夏休み』（幻冬舎）『がんに効く心の処方箋一問一答』（廣濟堂出版）『人生から期待される生き方』（婦人の友社）『苦しみを癒す「無頓着」のすすめ』（ブックマン）『いい人生は、最期の5年で決まる』（SB新書）などがある。



「お願い」

「カフェ」は、がんを患った患者さんやご家族が、大切な「思い」を出し合い、良い時間を過ごすためのものです。自己の意思とは関係なく伝わる可能性もありますので、営利目的（商品の紹介など）の活動は、ご遠慮くださいますようお願い致します。

参加お申込み

前日までのご予約制となります。ご希望の方は、事前に下記までご連絡いただきますようお願い致します。06-6673-5376